

第三者意見

環境報告書の信頼性向上に向けて、環境活動で優れた取り組みをされている国立大学法人電気通信大学に環境報告書の内容について意見をいただきました。学外の方から見た本学の環境問題への取り組みや環境報告書の記載内容についての意見を参考に、今後の環境活動や環境報告書作成の改善を図ります。

名古屋工業大学の環境報告書は、環境最高責任者である学長のトップマネジメントのもと、大学構成員の一人一人が環境を意識し、産業界や地域社会とともに継続的に環境問題に取り組まれていることが良くまとめられています。

学長が述べられているように、感染恐怖による活動凍結から、withコロナを許容する凍結解除へ移行され、研究活動や授業の再開により教員や学生が大学構内に戻ってきたことから、総エネルギー投入量や廃棄物排出量が前年度よりも増えていますが、コロナ禍前より継続的に削減できていることは、省エネルギー機器への更新等、エネルギーや廃棄物の削減への取組の成果であり、今後も継続して欲しいと思います。

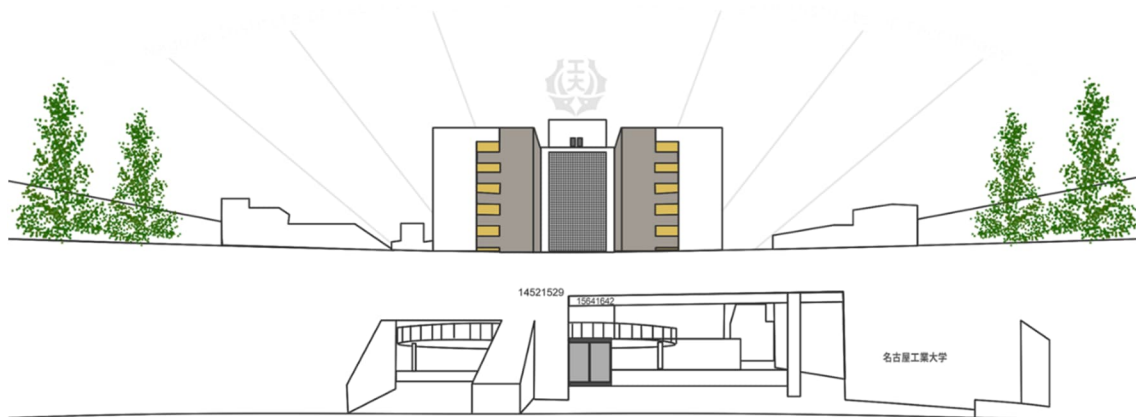
また、環境に関する様々な教育や研究への取組の中で、コロナ禍で2年ぶりに開催された「ソーラーカーレース鈴鹿 2021」は、学生自らがソーラーカーの製作に携わっていく過程で最新技術に触れることにより環境問題へのアプローチを実践的に学ぶことができる活動として、深く感銘を受けました。

貴学は、名古屋市から、環境に配慮した事業所として「エコ事業所」の認定を2008年以降、継続して受けていることから、それらの取組が成果を上げていることがわかります。「心で工学」を育む理想の培地の構築を目指して、さらなる緑化や「アートフルキャンパス構想」の実現など、未来づくりのプラットフォームに磨きをかけ、ますますの環境配慮活動を継続されることを祈念いたします。

2022年8月

電気通信大学理事(総務・財務担当)

安全・環境保全室長 三浦和幸



監事評価

環境配慮促進法第9条第2項では、「特定事業者は、環境報告書を公表するときは、記載事項等に従ってこれを作成するように努めるほか、自ら環境報告書が記載事項等に従って作成されているかどうかについての評価を行うこと、他の者が行う環境報告書の審査を受けることその他の措置を講じることにより、環境報告書の信頼性を高めるように努めるものとする。」と定められています。

このことにより、環境報告書の信頼性を高めるために評価を実施しました。

評価報告書

- 1 評価実施者
名古屋工業大学監事 雑賀 正浩
同 二村 友佳子
- 2 評価実施日
2022年 8月22日～同年 9月 6日
- 3 評価の対象
国立大学法人名古屋工業大学「環境報告書2022」
- 4 評価の方法
環境配慮促進法、同法第8条に基づく環境報告書の記載事項等(環境省)、及び環境報告ガイドライン2012年版(環境省)を基準として評価しました。
- 5 評価の結果
 - (1) 名古屋工業大学「環境報告書2022」は、上記環境配慮促進法等の評価基準に基づいて作成されており、記載情報及び取組内容の正確性が確認できたことから、適正であると評価しました。
 - (2) 2021年版から、「目次」の次頁に「SDGsについて」の頁を新たに設け、報告書の各項目に関連するゴールを個別マークで引用するようになりましたが、2022年版では、さらに一歩進めて、ターゲットも引用しています。
SDGsに対する取組は、このように、身近な活動を個々のゴールやターゲットに関連付けて捉えることで、少しずつ可視化され、さらに前進していくと思われるので、上記のような編集は、良い試みであると思いました。
 - (3) 6頁の「環境マネジメント体制」は、従来の組織図を見直し、実際の運用も踏まえた組織図に改定されました。
いざという時に大学が速やかに、かつ、適切に対応するために、地味ではありますが、重要な改善点として、評価することができます。
 - (4) 毎年、「学生環境改善プロジェクト」のひとつとして紹介されてきた「名古屋工業大学工大祭実行委員会」の活動報告が、今年はありません。
新型コロナウイルスの感染拡大のため、2021年度は清掃活動の中止を余儀なくされたとのことでした。
地域貢献の一環として、地域の美化、地域住民との交流を目的とするこの活動が再開されることを願っています。